

令和5年度 屋代南高等学校 学校評価表（最終評価）

学校教育目標				総合評価		
<p>校訓：誠実と自覚</p> <p>教育方針 ①一人ひとりを尊重する教育を実践する ②自主性を重んじ個性の伸長を図る ③豊かな情報と自立の精神を育てる ④地域との連携を深め、郷土愛する心を育てる</p>						
重点目標（中・長期的目標）						
学校生活や地域と連携した様々な活動を通して、主体的に学ぶ姿勢と健康で豊かな心を持った生徒を育成する。						
今年度の重点目標				評価（成果と課題）		
1	生徒一人ひとりの規範意識を高め、自覚と責任ある行動を促し、人権を尊重する心を育て、いじめのない安心・安全な学習環境を確立する。			学年集会等で指導を重ねたことで、生徒の人権意識を高めることができた。一方で、SNSの利用マナーや身だしなみ等の規範意識については更なる向上を図っていく。	B	
2	個々の生徒が志望する進路の実現を目指し、基礎学力の向上と、進路先で対応できる学力をつけるための、きめ細やかな学習指導を展開する。			定期考査や進学対策の補習に加え、タブレットを用いた新しい形態による学習指導も行った。生徒がより向上心を持って学習のあり方について更に研究していく。	B	
3	生徒会活動やクラブ活動の活性化と充実をはかる。また、外部との交流も積極的に行い、地域から信頼される学校づくりを目指す。			コロナ禍による制限がなくなったことで、充実した文化祭やクラスマッチを実現することができた。クラブ活動の活性化については今後も課題とする。	B	
分野	評価項目	重点目標	評価の観点			
学 習 指 導	基礎学力の向上	2	基礎学力を定着させるために「難しいことややさしく、やさしいことを丁寧に教える授業」を展開することができたが、また、ICTを有効活用した自主学習等に取り組みすることができた。	・2回回の授業評価アンケートでは、授業理解や教員の授業の工夫について肯定的な回答が多く、「わかる授業」を展開できた。 ・一人一台端末を用いて補足プリントの配信や課題の提出などを行うことで、ICTを活用した生徒の自主学習を促すことができた。	授業評価アンケートに、生徒同士が話し合う場のある授業を望む回答があり、ICT等を活用しながらさらに生徒の主体的な学びを引き出す授業づくりの研究を進める。	
	より良い学習態度の定着	1	生徒の知的好奇心を喚起し、主体的に学習活動へ取り組みよう工夫を重ねた指導をすることができたが、また、生徒が積極的に対話的な学びが行えるよう支援することができた。	グループ学習やプレゼンテーションなど、様々な教科で生徒が主体的・対話的に取り組むための工夫された授業を行うことができた。	校内通信等によって各教科担当者が授業で実践している工夫や取り組みを共有する機会を設けて、より一層充実した主体的な対話的な授業の実現を図る。	
	個に応じた指導の充実	2	生徒一人一人の学習到達度に応じて、補習等の指導や声掛けを行うことができた。また、個々の進路希望や実力に応じ、進路実現のためのきめ細やかな指導を行うことができた。	観点別評価の実施により、生徒一人一人に適した指導や声掛けを行うことができた。また、朝や放課後に補習を行うなど、生徒の進路実現に向けた学力補完の機会も設けた。一方で学力差への対応については不十分である。	係や学年を中心として、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、中・長期的な計画に基づく学習指導ができるよう校内体制を整える。	
	進路選択に応じた教育課程の研究・編成	2	選択授業等において、各生徒の多様な進路選択に対応できる編成をすることができた。	生徒の進路希望に応じた選択授業を開講し、個別面談等を通して進路実現に向けた選択をさせることができた。	教員主任会を中心として、継続した審議を重ねていく	
教 育 活 動	キャリア教育の充実と進路意識の高揚	2	健全な職業観育成のためインターンシップに積極的に取り組ませることや、進路講話・説明会の開催により、生徒の進路意識を高めることができた。	2年生の就職希望者全員と進学希望者を対象に、夏休みのインターンシップを行った。製造業・接客業など地元企業を知り、希望が持てる貴重な機会となった。1月以降は就職支援員と係との面談を行い、本人の希望や適性をもとに希望職種を考へ企業調べを行った。校内や外部の進路ガイダンスに参加させる中で、進路への意識づけを行うことができた。	インターンシップは就職への意識づけや企業調べをする有益な活動となるため、企業と連携しながら来年度も行うこととしたい。1、2年生にも「進路の手引き」をクラスで配布配布して、推薦基準、準備すべきことや日程、先輩の進路先を事前に知らせ、進路への意識づけをさせていきたい。	
	多様な進路希望の実現	2	3年間を見通した進路指導計画を作成し、一人ひとりの希望進路実現に向けてきめ細かく支援することができたが、また、各自選択のガイダンス指導は適切にできなかった。各種模試や補習を計画実施し、生徒の多様な進路希望にも対応することができた。	選択科目のガイダンスは秋に実施し、1、2年ともに科目担当者や内容や履修の条件等詳しい説明をした。各学年とも英国を中心とした進路希望を平日放課後や長期休業中に行った。また、年間計画にしたがって各種模試を行った。大学・短大・専門学校系系への入学に向けて、教員が担当して小論文指導と面接指導にあたった。	1、2年ともに選択科目のガイダンスを10月下旬に実施し、科目の進路、調整をする時間を十分に確保できた。来年度も同時に実施したい。小論文指導や面接練習は学年を越えて多くの教員が担当することで、指導の継続性が生まれると考える。	
	進路指導における校内連携および保護者との連携の強化	2	係・学年にとまらぬ全校教員による進路指導体制を確立し、保護者に対しても情報提供、個別面談や相談を行う機会を設けることができた。	3年生の就職対策では、学年の教員中心に何度も面接指導を行った結果、内定を勝ち取ることができた。また進学対策では小論文指導・進学補習など学年を越えて多くの教員が指導してもらった。2年の夏休みインターンシップでは、係と学年の教員中心に、企業との打ち合わせ・生徒への連絡を分担した。保護者懇談の時に進路状況や学費の説明など資料の提供ができた。さらに3年の保護者向けに通信を作成し、夏休み以降の進路の手引きや日程について周知できた。	今後も多くの教員による面接指導・小論文指導と、保護者に対する進路情報の提供を継続して行っていく。	
生 徒 指 導	暴力・いじめを許さない指導の徹底	1	入学時の指導や様々な集会、講演会、HR指導などを通じて、いじめ・暴力を未然に防ぐ指導が徹底できたが、	いじめに関する「学校生活に関するアンケート」を3回実施した。 SNSへの投稿については、講師を招いての講演や日々の注意喚起により大きなトラブルはなかった。いじめはなかったが、対人トラブルは散見され、人間関係構築力を高める指導が必要である。また、からかいや嫌がらせとみられる行為があったが、その都度、係・学年で連携を取り対応し、解決することができた。	クラス・生徒の小さなトラブルでも、その状況を各学年、職員間で把握し、情報の共有を行い、未然に防ぐとともに、早期発見・早期解決を図りたい。更に、自分と違う考えや存在を認め、他者を尊重する意識の涵養をすすみたい。	
	交通安全指導の徹底	1	交通安全講習会、自転車点検、HR指導などを通じて、いじめの大切さと交通安全に対する意識を高めることができた。	警察や交通安全協会、自転車点検、HR指導などを通じて、いじめの大切さと交通安全に対する意識を高めることができた。	1年生の交通安全教室が久しぶりに自動車学校で実施できたが、次年度以降も継続していきたい。自転車のヘルメット着用努力義務については、令和5年6年入学生には基本的には学校として着用を義務づけていきたい。	
	校外における生徒の規範意識醸成	1 2	校内巡視・学校生活態度改善カード活用で、生徒の授業に取り組む姿勢を向上させることができたが、また、校外巡回指導により、駅・列車内・通学路での生徒のマナー向上が実現できた。また、身だしなみ、貴重品管理等の指導により、基本的な生活習慣を身に付けさせることができた。	授業の出だしや休憩など一切見逃されず、着目着いて授業に取り組むことができていた。身だしなみなどについては、まきりだからという意識ではなく、礼儀・礼節・マナーの意識を高めて、自らTPOを意識して生活できる資質を身に付けさせたい。数名（進路指導13名）の生徒の差別はあまり改善されなかったが、ほとんどの生徒は時間を守って登校している。化粧や装身具は禁止であるが、数名の生徒で違反が見られた。全体として落ち着いた生活ができていた。	貴重品管理より生徒に徹底させる。生活態度改善カードを更に活用し、早い段階での指導を心掛ける必要がある。身だしなみについては、自らを律する気持ちを持たせたり、TPOを意識させたり、HR等で普段から啓蒙していきたい。	
悩みや不安を抱えた生徒の相談・支援体制の充実	1	学年・担当係と連携し、SCやSSWなどを有効に活用して、生徒・保護者に適切な支援を行うことができた。	相談会議やアセス(学校環境適応度)アンケートなどから課題のある生徒を把握し、担任と連携を取り合い、SCやSSW、高校巡回支援など外部機関に繋げることができた。今後も早めの状況を把握し、支援に繋げていきたい。継続的な支援が必要な生徒が多いので次年度も今年度並のカウンセリング時間を必要としたい。	今年度同様、定例の相談会議で課題のある生徒の情報を共有し、生徒に寄り添う支援を行ってきたい。次年度も県のスクールカウンセラー重点活用法の申請を行う。		
生 徒 の 自 主 活 動	【生徒会活動】 生徒が主体的に活動するための適切な助言と指導	3	生徒会活動を通して、生徒が主体的に活動することを支援できた。	今年度は新型コロナウイルス感染症が5日に移行され、生徒会行事の制限も緩和された。文化祭のステージ発表や発表発表など外部に向けて活動の成果を発表できる幅が広がったことは意義深いと感じた。しかし、異常気象による熱中症対策が持ち上がり新たな問題となった。生徒会活動を安全に実施する対策が求められる。	熱中症対策を最優先に考え文化祭の実施時期を7月から6月に変更する。また、全校生徒が生徒会委員会に所属し活躍の場があるため、生徒の活躍できる場を確保しつつ安全に生徒会行事を行えるように配慮したい。	
	【クラブ活動】 クラブ活動の活性化	3	クラブ活動の定着率・参加率増加を目指し、生徒が自主的に活動することを支援できた。	今年度は4月にクラブオリエンテーション、クラブ見学、クラブ結成式を実施することが出来た。1年生の加入率は37.3%だった。社外生なども工夫をこらして、全校生徒で応援することが出来る。	クラブ加入率の増加に向け、各クラブの活動の様子などを全校に発信できるように引き続き検討していきたい。	
開 か れ た 学 校 づ く り	地域と連携した様々な活動を通して、地元の方々との信頼を深めることができた。	3		今年度は昨年引き続き地域文化伝承活動「科野のムラお田楽祭」に参加することができた。また、平成20年より続いている現代駅のイルミネーションについては、設置することができ、地元の方々や交流する機会ともなり良かった。今年度も「羽根共同基金を全校に呼びかけ、455万円を千両市社と福祉協議会へ寄付することができた。	地域行事への参加も長く続いている伝統があるため引き続き大切にしていきたい。地域への行事参加や交流について、興味関心をもっている生徒が増えているため、全校に呼びかける機会を増やしていきたい。	
	地域の連携と情報提供	1 3 4	1 2 3	外部講師の活用や生徒会活動などで地域の教育力を活用する取り組みができた。 外部講師の活用や生徒会活動などで地域の教育力を活用する取り組みができた。 HP等を通じて、本校の活動に関する情報をわかりやすく提供しているが、 HPを積極的に活用し、学校内外での生徒の活躍について随時提供することができた。	できる限り地域行事への参加や外部講師の活用を進めていきたい。 今年度も同様に積極的なHPの更新を行う。	
	保護者への情報提供	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
学 校 運 営	学校評価活動の活用	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	学習指導に関わる研修	2	学習指導及び進路指導充実のための研修会を実施できた。授業改善のための相互授業見学・研究授業を実施できた。	「学習評価」に関する校内研修やICT支援員によるサポート研修を実施した。また、中学生向けの公開授業を2回実施するとともに、10月には相互授業見学および初任研・10月・10月研修の研究授業を行った。	職員研修や校内向けの授業公開期間を設定するなど、教員相互での研修を積極的に進めていく。また、校外の研修会にも積極的に参加し、他校で行われている先進的な取り組みについて学びを深めていく。	
	生徒指導に関わる研修	1	多様な生徒を理解し、人権意識を高めるための研修会を実施できた。	人権教育相談係主催で、長野養護学校から講師を招き、発達障害等の理解に関する教員研修会を実施した。	生徒が本校でやり違えることができるよう、個々に対応した支援の充実を図ってきたい。	
職員の資質向上に関わる研修	1	組織的に努力、信頼される教職員集団として活動するための研修を実施できた。	年間を通して職員会議の中で、学校長よりコンプライアンス等についての研修を行った。	職員一人一人が自事と捉え、職員同士での学びあう機会が持てるような職員研修の計画立案をしていく。		
安 全 管 理	施設設備の整備	1	生徒の安全な学習環境を維持することができた。	教室やトイレなど不備がある箇所は、修繕や改善に繋がった。	安全衛生委員会や環境衛生検査等の機会を通して、引き続き安全な環境を維持していく。	
	校内の危機対応の周知徹底	1	緊急時対応の方策を確認するなど、危機管理意識を高める取り組みができた。	10月に防災訓練を実施した。スムーズな訓練を行うことができた。	防災のみならず、防災対策等も含めた緊急時対応を年間通して実施していく。	